

防衛

遺骨問題メモ

44. 7. 23
北東アジア課

1. 在日韓国人軍人軍属の遺骨処理
について。

(1) 現在の状況

厚生省埋蔵骨所管で 2,331 体が保管
されている。

このうち 1,862 体は南出身であり、469 体
は朝鮮出身である。

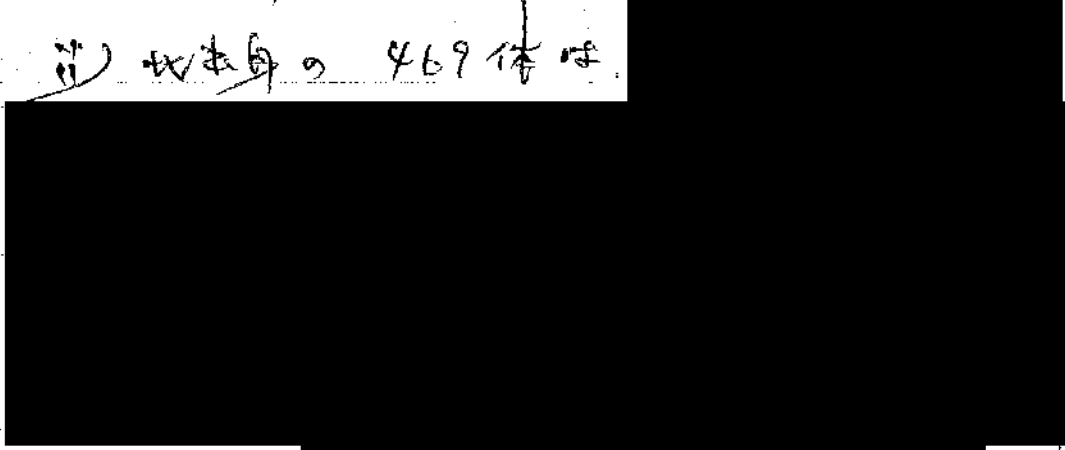
なお、厚生省は、最近の社会に於て、都道府県
の公立墓地にこれらの遺骨を遷すことを見
中である。

~~朝鮮軍人~~
~~朝鮮軍属~~

(A) ~~問題集~~
辞決集

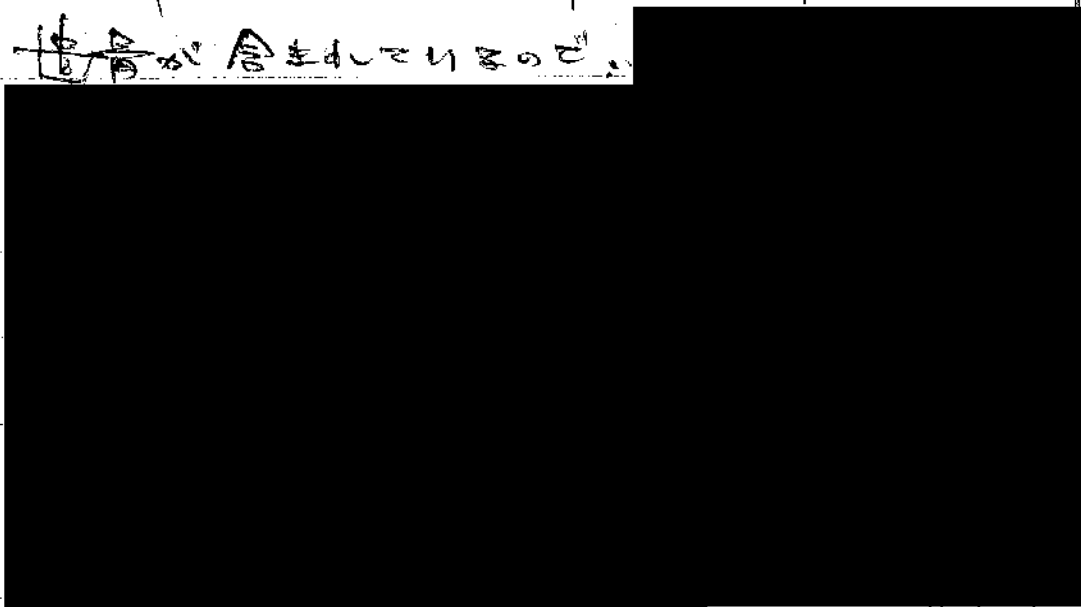
(1) 韓国創設書 (昭41.11.4)

山南出身の1862作は一括に韓国政府
が引取り、その後稼故書に引渡す。
山本出身の469作は



[問題集]

本件書骨2,531冊中には朝鮮出身者の
書骨が含まれているので、



[Redacted]

(2) 日本国特許(特許法第1条) (昭和三十八年八月一日)
(特許庁に提出中)

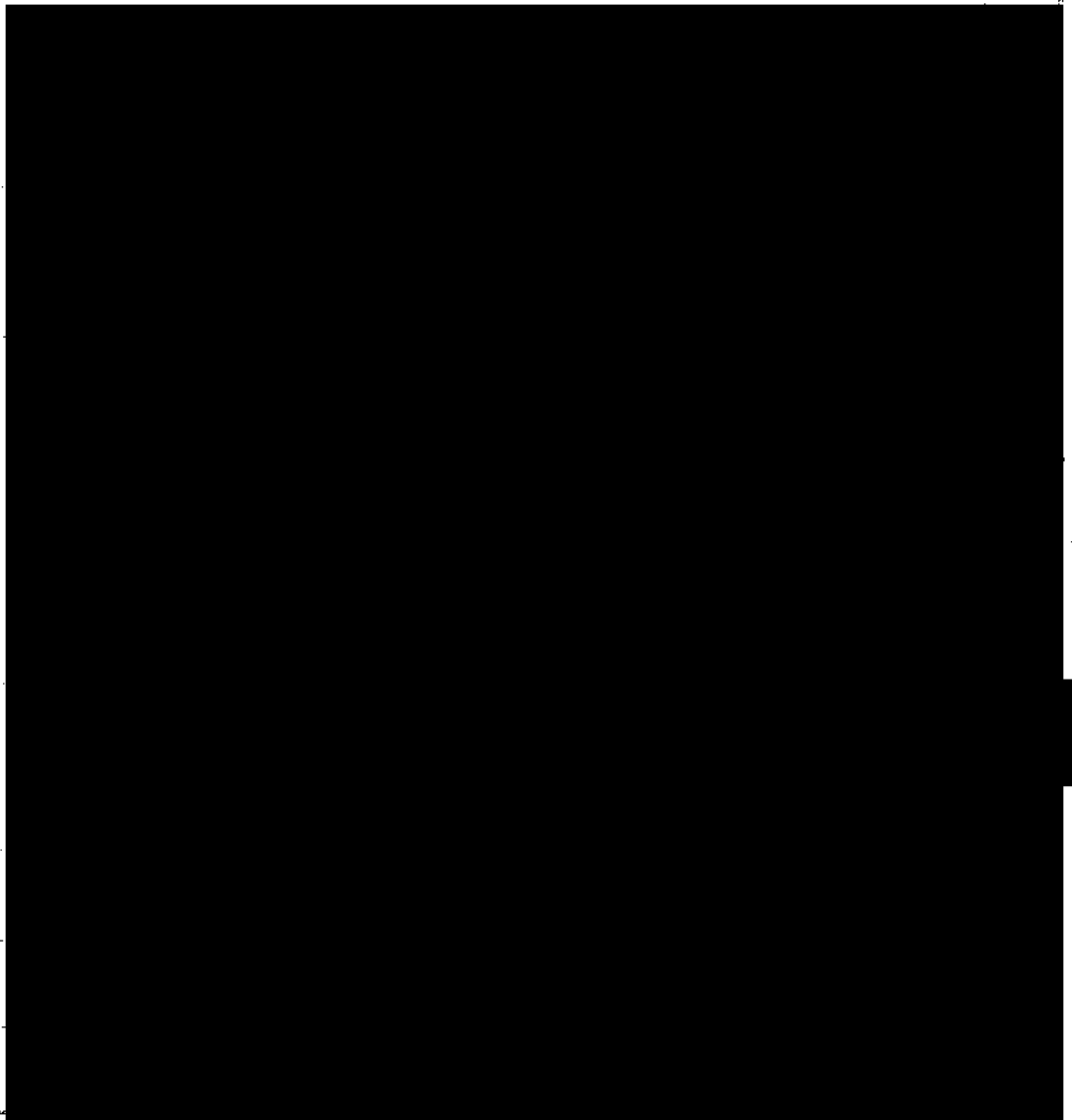
[Redacted]

[Redacted]



[答]

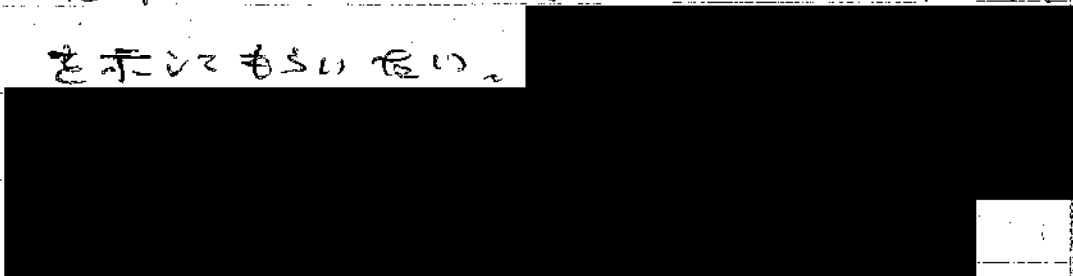
本職に在る者の昇格





(3) 日本創成事業(伊達財団) (昭和4.2.6
金融部長の令状に於て)

日本創成に於て、真正の債権に引渡しを以て
韓国政府及び、大正昭和の債権を以て
具体的に昭和昭和の氏名に於て、伊達財団
を示して欲しい。

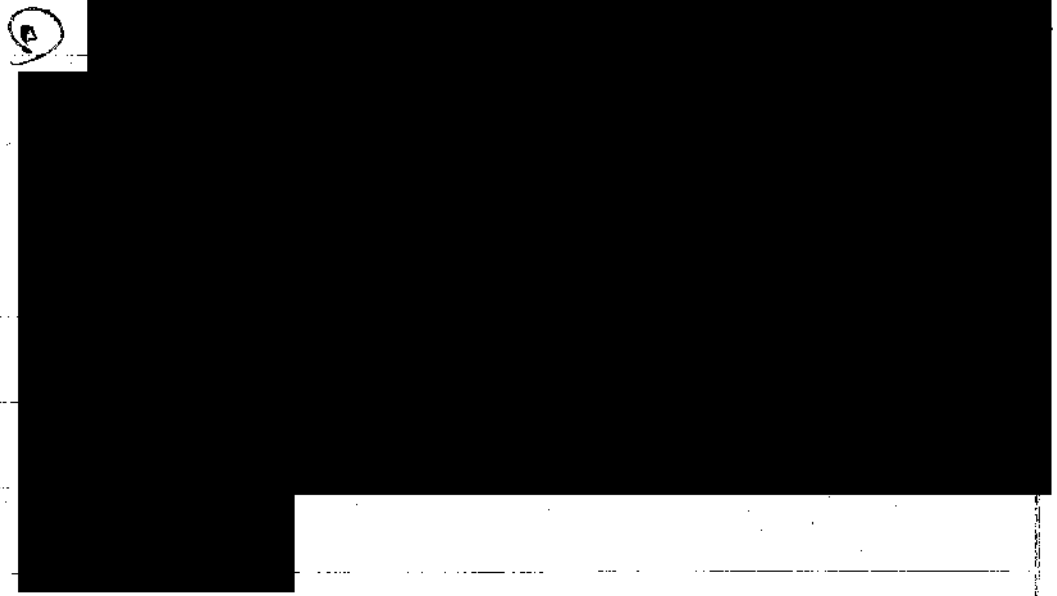


拒. 誰かの債権に引渡した後の債権
は、立次が創成塔を以て、電報に
おとすことも一筆である。

(4) 金山大橋/詩集 昭44.5.13.
(韓国劇に惹かれて)

橋の町は本来、戦人道的な土地がはびこ
りて進歩の町に育ち、²⁵⁰韓国劇建築
(前出①)を未来まで引き継ぎ、その面子
をたもつていくべきと見做され、
昭和44年、日本政府が、韓国劇を
奨励。

次に下記の韓国劇 (昭44.5.23) あり



① ~~韓国~~ 韓国、韓故を韓国で
おこなうには、水と地下に埋

2. 在韓日本人遺骨の件

(1) 全体の数は、未調査が不明である。推定概数は次のとおり。

① ソウル 約 6,000 体 (2005 年^日西韓両年の
もの約 ~~2,300~~ 2,300 体は昭和三十九年引取り済み)

② 釜山 約 3,000 体 (無縁墓所の墓
の碑を立てるために埋葬されている)

③ 主要各都市 計 約 1,000 体

④ 徳島^日の戦没者^日の遺骨^日 約 ~~1,000~~ 1,000 体
は、韓国側調査(昭和三十九年)によれば全国で
約 176,500 体と推定されている。

(2) 現在問題となっているものの次のとおり

(A) 在ソウル火葬場所長室のもの

ソウル市火葬場の所長室に保管されて
いるもの 約 5,000 体と推定される。

① ~~以前~~ ソウル市の

現在火葬場の移転計画(昨年12月議
が本年6月になり、現在のところでは12月の
延期とされている)により、早急にソウル市内
の~~火葬場所~~の~~保管~~ 移転引取り

が公庫となっている。

◎ 舞鶴のソウル市の日本人墓地は、韓国法人
墓地管理の管理下に、西大内区弘済洞
の火葬場の位置にあったが、現在同墓地は
ソウル市所有となっており、日本人墓地にあった
日本人遺骨は約4年前に掘出され、数々の
木箱に入れられて内務部及びソウル市
の依頼により、現在の場所に移設されている。

(B) 在ソウル旧南政院のもの。

旧南政院(呼土泉)の管理下に
あった墓の約150体。

韓国側管理の状況により、華僑等に
現在移設されている。

洋土泉 松木山 知恩院 / ~~韓国~~
側南業者との間で目下 順調に交渉中
であり、このほか、在ソ 日本領事館の側
もあり、可能性は十分。

(C) 連邦韓島の軍人軍属

昭和19年輸送船が遭難して、

船舶に罹り死者の大部分が海没死とし、
 徳積島及び伴作島の漂着遺物^{1,000}件
 最近同島と海水浴場とに、南巻相取
 プラドナーと整地を始むる由に、再見
 必要と要する現状である。

一方は、本件。特殊性を具し、韓
 國政府に、その早期処理、向方協力
 (第一次調査) 情報提供、現地協力
 を求めらるゝ。

漂着遺物及び遺物数

徳積島	約100件
伴作島	50件
鼻風島	40件
三浦島	125件
宇野島	128件

3. 日韓、韓米間の遺骨引取り推進者
なる団体、現状。

(1) 在韓日本人遺骨奉還委員会

会長 岸忠毅様、推進者 沢
矢吹一夫氏、横塚
孝雄等韓別派、ヒナリ。

在ソウル火葬場所長室設置の遺骨の
引取りに力を入れている。現在は活動
に力を入れている。

この団体、韓国側相手には休

在韓外国人遺骨奉還委員会あり。

(2) 中央日韓協会

在韓日本人物故者、遺骨収集と
奉還に力を入れている。昭和45年刊次の活動と
行なっている。(韓国副理事長が主と
に行なっている由)

調査依頼書を集める(1万円500円)

これに回答を行うことも、依頼書
が遺骨収集の場合に発生する

調査調査を行ったことと計画している。
現在のところ、調査依頼は微々たるものがある。

(3) 浄土宗総本山知恩院

前掲の通りである。

(旧南無殿の遺骨の引取りは努力中)

(4) 新日本顕彰会

昭和41年には旧日本顕彰会(在りし)の
遺骨2,300体を引取り。

現在引揚着、納骨堂が在り(在りし
在りしの場合の引取りの場合の引取りの場合の
一つと見られる。)

(5) 在韓日本人物故者遺族会

昭和44年4月、中央日報協会の付録
により、出来在り。

会長岩鷲喜雄(在りし日僑の部
長のA)で、会則も在り、目下のところ、
故人遺族がこれに参加しては在り。

別添1 韓政普覧見の方法

別添2



別添3

在韓日本人連青奉團
各區會 奉還42